

# ふれあい つながり かわら版

## 義務教育学校

## 白鷺小中学校

### 第一回 実践研究発表会

本市では、平成21年度の白鷺小学校と中学校におけるモデル実践を皮切りに、平成23年度より、全ての中学校ブロックにおいて小中一貫教育の取組を推進してきました。

白鷺小学校と中学校は、義務教育学校となる平成30年度まで、9年間欠かすことなく自主的な「実践研究発表会」を開催してきました。子供が学びに向かう『自学力』を育むために、真摯に授業と向き合う教職員の姿は、白鷺小中学校の礎であると同時に、本市教育の先導的な役割を果たしてきました。



受付や会場の案内をするPTAの皆様

10月25日(金)に、義務教育学校として、また、コミュニティ・スクールとして1回目の実践発表会が学校運営協議会と共催で開催されました。今回のかわら版は、県内外から、約360人の参加者を迎えた、この研究発表会を紹介します。

### 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習過程の工夫

#### 探究し続ける児童生徒の育成

社会構造の転換に伴い、唯一絶対の「正解」を導くことが難しくなる中、子供達は、その状況における「最適解」や「納得解」を、自力で、または多様な他者と

姫路市教育委員会  
学校指導課  
小中一貫教育推進係  
(079)221-2120



#### 「探究」の授業像

児童生徒が自分ごととして課題に挑戦し、対象世界(教材)とも仲間とも自分自身とも対話しながら、教科等の見方・考え方を働かせて解決する学習過程がある授業

実践研究発表会では、1単位時間や1つの単元の中心に、「課題設定」「課題解決」「振り返り」の3つの場面を設定した授業20本を公開しました。「一人一研究授業」を合言葉に、公開前にも19本の研究事業に取り組んできました。



#### 5年生外国語における課題解決の場面

公開された授業はどの授業も学習する子供の視点に立ったものでした。子供達が「なぜ?」「どうして?」と自分事として捉えたり、教材や仲間との対話により課題を解決したり、「もっと○○したい!」と授業を振り返ったりするなど、「前のめり」になりながら探究する姿が多く見られました。

#### 全体会 研究概要の説明

協働しながら創り出していくことが求められています。このような国の動向や学習指導要領の改訂をふまえ、研究テーマを「探究し続ける児童生徒の育成」とし、学習過程を工夫した授業改善に取り組みました。

#### 探究し続ける教師



#### 分科会 生活科・総合的な学習

各部会に分かれた分科会では、「児童生徒がどの場面で探究していたか」(算数・数学部会)など、討議の柱に沿って様々な意見交換がなされました。そこには、参加した教師が校種の垣根なく自分の考えを伝え合い、「前のめり」になって探究する姿がありました。

また、新たに「コミュニティ・スクール」の部会があり、多くの教師が新しい学びを得るために参加していました。

研究概要の説明で「教師に必要な資質・能力」は、①チャレンジする勇氣、②AIにはない人間的な温かさ、③探究心と報告がありました。白鷺小中学校では、この実践発表がゴールではなく新たな課題を発見し、これからの事後の研究授業につなげて行くそうです。子供達だけでなく、探究心を持ち、チャレンジし続ける教師の姿が見える実践研究発表会でした。

#### 國學院大學教授 田村学氏講演より(一部要約)

教師の指導性と子供の主体性は二項対立ではなく、両者が相乗効果をもって高め合っていくものです。

(中略)

子供達というのは、未熟な存在ではなくて、むしろ有能だということを信じて、学習者の視点に立った確かな授業を実現していく発想の転換が必要です。